



前田利家をはじめとする武者行列等が城下を練り歩く豪華絢爛な時代絵巻が売りで、長く市民に親しまれてきた。一方、マンネリ化して、精彩に欠けるといった指摘もつとにされてきており、これまでも市民の声を受ながら、前田利家役の俳優起用や週末開催など、観客動員のための工夫がなされてきた。こうした取り組みは一定の成果を上げてきたものの、近年は観覧者数に減少傾向が見られており、北陸新幹線金沢

開業などの社会情勢の変化を見据え、さらなる魅力向上の必要性から、今回の改革を行うに至った。

二：金沢百万石まつり 活性化に向けて

実行委員会では、観光・旅行業界、商店街、市議会などで構成される活性化研究会を設置し、二〇〇五年五月から昨年三月までの期間、金沢百万石まつりの活性化についての検討を行った。また、検討にあたり、金沢市民からの提案や百万石行列の出演者・周辺の主要宿泊施設に対するアンケートやヒアリングなどの調査を行い、その結果を今回の改革に反映させている。

これらの調査により、百万石行列は「マンネリ化しており、面白みに欠ける」、「時代行列と音楽パレードが混在し、行列のコンセプトが曖昧」、「行列が間延びしてしまっている」、「行列の構成も運行コースも長すぎで、見る側は退屈であるし、参加者は集中力を保てない」などの問題点

が鮮明になった。

三：金沢百万石まつりの 改革について

①百万石行列の刷新

―藩祖前田利家の金沢入城を再現

改革における最大の改善点は、これまで金沢城公園の周りを一周していた利家一行の行列コース（約四・三キロ）を、金沢駅を出発し、金沢城公園に入るコース（約三・一キロ）に変更したことである。金沢城公園を終着地にすることで利家入城という歴史性をより明確に打ち出し、加賀百万石の栄華をしのばせるまつりへの刷新を図っている。また、活性化研究会では百万石行列のコンセプトを「武者行列や金沢の伝統文化の百万石時代絵巻行列をメインとし、利家の入城行列を明確にする」としており、行列の編成を見直し、従来、行列を先導していたオーブンカーを廃止する一方、若き日の利家を表現する「かぶき者行列」を新たに加えるなど、洗練度を増している。演出においても、行列全体が一齐に止まって披露する「一斉演技」を取り入れた。行列の出発時間を従来の正午ごろから午後三時半に遅らせ、夕刻にクライマックスをもつてきた演出も奏功した。こうした一連の改革は近年の観客動員数の減少傾向に歯止めを掛け、まつりは例年になく盛り上がりを見せた。

②新たな行事への取り組み

―金沢城公園の積極活用

メイン行事である百万石行列以外の行事についても、統廃合、新たな行事の付加やプログラム構成など行事全般に関して見直しが行われている。今回

の改革で新たに付加された行事の中で特に目を引くのが、「金沢城おまつり広場」である。金沢城公園内でのステージイベントや利家にちなんだ「かぶき者ファッションコンテスト」などが行われた。活性化研究会では、金沢城公園を活用し、市民参加の拡大を図り、新たな賑わいを創出する方向性を示している。

四：観覧者の声を生かす 運営に期待

実行委員会では、今回の改革の評価を得るため、観覧者に対するアンケート（まつり当日の街頭、ホームページ上の調査）を行い、観覧者の声を今後の運営の検討材料としている。アンケート結果では、行列の新しいコースについて約六割が「良い」と回答した。また、行列観覧後は約四割が「街中で飲食する」としており、行列の出発時間を遅らせたことにより人々が街中に滞留したことがうかがえる。一方、「一斉演技」には批判的な意見が見られ、また梅雨時期の開催を見直す声が寄せられるなど、今後の課題が明らかになった。

こうした声を受け、金沢百万石まつり実行委員会は、次回から行列の「進行政管理班」を設けた上で、「演技指導班」を新設し、観客を飽きさせない演出を検討する。開催時期についても従来の日程から一週間前倒しし、六月の第一土曜日を中心とした三日間となることが内定し、改革の手を休めず、さらなる魅力アップを目指している。今後も観覧者の声を生かす実直な運営に期待が持たれている。